

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自分を見つけ、自ら学ぶ喜びを知り、多様性を認め、志に向かう力を持って巣立つ生徒を、総合学科の特色を活かして育成する学校。
生徒： 主体的に学校づくりに参加し、自ら考え多くを体験し、自分を見つけ、志を実現すべく学ぶ、卒業後の大きな”伸びしろ”を有する生徒。
授業： 社会の要請と生徒の進路希望・興味関心に応え、生徒の志を実現するために必要な学力を保障する授業。
教職員： ビジョンを共有し、チームとして協同し、成果を分かち合い、社会との関わりを大切に、自主性を重んじ生徒の成長を支え続ける教職員。

2 中期的目標

<p>1. 高い志を持って進路を切り開いて行く力の育成</p> <p>(1) 自らの進路を考える力の育成： 1年『自己発見』、2年『自己探求』、3年『課題研究』を軸として『今宮志学』プログラムの体系化 ※卒業時の学校教育自己診断における「1年、2年、3年での今宮志学」への肯定的回答を全て80%以上とする。</p> <p>(2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成： 生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成 ※今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施</p> <p>(3) 国際感覚と国際交流力の育成： 海外交流と生きた英語に接する場の提供とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上 ※ 英語暗誦・スピーチコンテスト大会、海外語学研修（豪州・米国・台湾）、海外留学生・海外学校訪問受入れ、特色ある英語選択科目の提供 ※ 英検等外国語認定試験にトライする風土の育成。</p> <p>2. 自己実現のための学力保障と進路保障</p> <p>(1) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成 ア. 大学進学を中心課題とし、社会と生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラム編成 ※卒業時の学校教育自己診断における次の2つの項目における肯定的回答を共に90%以上とする。 ①「選択科目の内容は、期待通りであった。」 ②「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あった。」</p> <p>(2) 授業の充実 ア. ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上と今宮にふさわしい教育力向上システムの確立。 ※研究授業実施回数 年間国数英理社2回以上、他教科1回以上（計15回以上）</p> <p>(3) 進路保障 ア. 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成 ※ 卒業時の学校教育自己診断における生徒の「家庭学習(予習・復習)」項目の肯定的評価を H28 年度 60%に高める。(H28 年度 53%) ※ センター試験において平均点以上を獲得する生徒を増やす学習指導。 イ. 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実 ※ 国公立と有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大・早慶上・MARCH レベル)への進学者合計が、四年制大学進学者の70%以上を占める。 ※ 京大阪大神大府大市大を含め国立大学への進学者数が40名以上。 ※ 英検準2級以上の資格取得者が卒業生の80%以上を占める。英検2級取得者を80名以上とする。</p> <p>3. 個性を輝かす生徒の育成</p> <p>(1) 生徒と向き合う時間の確保のためのICT活用推進 ※ 生徒情報の共有化と校務の効率化</p> <p>(2) 生徒相談体制の充実 ※ 卒業時の学校教育自己診断における保護者の「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価を H31 年度 80%に高める。(H28 年度 59%)</p> <p>(3) 自主性を大切にしながら、生徒に規律と習慣を身につける生徒指導 ※ 遅刻者数の一層の低減 (HR 遅刻 5 回以下比率 85%)</p> <p>4. 社会に開かれた学校づくりの推進</p> <p>(1) 学校情報の発信（ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問） ※ ホームページ平均1日アクセス数を、500回/日にする。</p> <p>(2) 地域貢献（教養講座の充実と地域行事への参加） ※ 教養講座の定期的開催</p> <p>(3) PTA、同窓会、後援会の皆様との連携の強化 ※ 1・2年生保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、H31 年度 90%に高める (H28 年度 84%)</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■保護者満足度：『子どもが今宮高校で学んでよかった』の肯定的回答 1年保護者97%、2年保護者96%、3年保護者96%と好結果。 生徒の学校生活の満足度の高さと活発なPTA活動が要因と思われる。</p> <p>■ICT使用授業の充実：『ICTが授業等で活用されている』の肯定的回答 H26：75% → H27：82% → H28：84% → H29：88%(今回)と改善が継続。 特に前年まで80%に届かなかった3年生が86%へと大きく改善した。 110周年記念事業で、音楽・書道教室を含めた全教室への無線式プロジェクタ設置が完了したこととベテラン教員含めての意欲の成果。</p> <p>■学習習慣：『毎日学習した』への肯定的回答 H26：22% → H27：27% → H28：34% → H29：34%(今回) 1年30%、2年26%、3年47%。全体では、34.2%でここ数年改善が継続していたが、本年は横ばいに留まった。2年生への励ましが課題。</p> <p>■授業への取り組み：『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答 本項目も、授業態度の指標として大事にしてきた指標である。 H26：40% → H27：47% → H28：53% → H29：57%(今回)と改善が継続。 全学年で50%を超え、3年生と1年生は60%を超えた。</p> <p>■図書館利用：『自分は、積極的に図書館を活用した。』への肯定的回答 1年13%、2年15%、3年39%。生徒向け調査項目中、群を抜いて低い。 エアコンの老朽化による夏期エアコンの未稼働が主要因と思われる。</p>	<p>第1回学校協議会（H29年6月10日）より</p> <p>■国際感覚の醸成について 戎橋商店街では、外国人向けの売り上げが50%を超えた。人材面でも海外の方の採用を増やしている。国内に居ても国際化は必要だ。戎橋商店街では、書画部に協力頂いているが、さらに交流を増やすことが、生徒の国際化にプラスとなると思う。</p> <p>第2回学校協議会（H29年11月17日）より</p> <p>■高校教育改革と入試制度の改訂の動きについて 今叫ばれている高校教育改革は、総合学科が20年以上にわたり進めてきた内容に、追い付こうとする動きだ。大学で教えていて、総合学科の卒業生は、『考える力』や、『まとめる力』等に優れ、他を引っ張る力を有している。総合学科の力強さを維持・発展させて欲しい。</p> <p>第3回学校協議会（H30年3月6日）より</p> <p>■生徒指導について 今宮高校の伝統である自主規制の精神を大事にし、生徒自身で考える力を育成するとともに、生徒の内面に迫る指導の観点で取り組んでほしい。</p> <p>■標準服について 校長から意見を求めた標準服の多様な性のあり方への配慮については、是非、取り組むべき課題だ。標準服の追加、見直し等を通じ、対応を急ぐべきである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 高い志を持って行く力の育成	今宮ブランドの意識共有と高揚	(1) 今宮ブランド意識の高揚 ア. 校歌に親しむ校歌DVDの放映等推進 イ. 生徒リーダー層の意識高揚 ウ. 今宮高校の伝統行事の熟成 (今高祭、今高生の主張、スピーチコンテスト等の開催) (2) 学校としての統一感の醸成 ア. 3年間の育成計画の共有と公開。 イ. 今宮学校生活モデルの共有と啓蒙 (3) 国際交流の充実 ア. 海外姉妹校訪問の充実 イ. 姉妹校の本校での交流の充実 ウ. 留学生の受け入れ	(1) 今宮ブランド意識高揚 ア. 5回以上。 イ. クラブリーダー会議3回(H28 2回) ウ. 4回以上(H27 4回) (2) 学校統一感の醸成 ア. 生徒・保護者等への説明の実施10回以上(H28 10回) イ. 生徒・保護者等への説明の実施10回以上(H28 10回)。 (3) 国際交流の充実 ア. 海外姉妹校訪問2回(1回) イ. 本校での交流2回(1回) ウ. 1名(H28 0名)	(1)今宮ブランド意識高揚 ア. 校歌を歌う機会・校歌DVD放映等計10回。(◎) イ. クラブリーダー会議1回(△) ウ. 4回実施。(○)：今高祭、今高生の主張、後夜祭、スピーチコンテスト、英語暗証大会等 (2)学校統一感の醸成 ア. 17回。(◎) イ. 4回。(△) (3) 国際交流の充実 ア. 海外姉妹校訪問2回(○) イ. 本校での交流4回(◎) ウ. 2名(H28 0名)(◎) エ. 本校生徒の海外留学の決定H30/8～1年間：2名(◎)
2. 自己実現のための学力保障と進路保障	国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大)合格レベルの学力育成。	(1) 進路指導システムの充実 ア. 模擬試験の実施 イ. 模擬試験等分析会の開催 ウ. 進路指導資料の整備 (2) センター試験への取り組みの進化 ア. センター試験受験者数の維持 イ. センター試験教科別平均点以上獲得のべ人数の増加 (3) 国公立・有名私大進学比率の増加 (4) 国公立進学者の増加	(1) 進路指導システム ア. 1年1回, 2年2回, 3年6回(H28 9回) イ. 5回/年以上の開催(H27 5回) ウ. 担任団への提供 (2) センター試験 ア. 前年並みの受験者数(H28年度144名) イ. 教科別獲得者数5%増(H28年度延べ344名) (3) 対四年制大学進学者比70%(H27 64%) (4) 前年比5名以上増	(1) 3年生進路指導の核として模擬試験を実施し、分析会で共有を進めている。 ア. 1年：1回。2年：2回、3年：6回、計9回実施済。(○) イ. 5回実施済み。(○) ウ. 進路マニュアルの整備(○) (2) センター試験を学力保障の指標として重視。 ア. センター試験受験者数138名(△) イ. センター試験教科別平均点以上獲得のべ人数H30年度324名(△)。センター受験者数減の影響。 (3) 留学3名除き63%(△)：現役国公立増、関関同立減 (4) 現役2名増、目標の5名増に届かず(△)
	学力・学習習慣データ把握の定着と英語力の向上	(1) 学力の定量把握の定着 ア. 学力生活実態調査学力リサーチの実施 イ. 学力生活実態調査分析会の実施 (2) 授業の充実 ア. パッケージ研修Ⅱの取り組み イ. ICT機器の充実とICT使用授業の増加 ウ. 生徒がしっかり声が出ている授業の増加 (3) 英語力の強化 ア. 英検受験の推進。 イ. 英検一次合格者増 ウ. 英検2級保持者数増。 エ. 英検校内受験機会の拡大 オ. 英検校内講習の実施 (4) 生徒の学習習慣の定着 ア. 学力生活実態調査学習習慣リサーチの実施 イ. 自学イベントの実施(学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催) ウ. 学習記録カードシステムの定着	(1) 組織・制度 ア. 学力生活実態調査の実施(1～2年, 2回/年)(H28 2回) イ. 年2回(H28 2回) (2) 授業の充実 ア. パッケージ研修Ⅱの実施 イ. 生徒向け学校教育自己診断『ICT機器が授業等で活用されている』の肯定的回答85%以上(H28 84%)。ICT授業の公開10回 ウ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答55%以上(H27年53%) (3) 英語力の強化 ア. 延べ300名以上の受験(H28 223名) イ. 準2級180名(H28 158名) ウ. 前年比10名増 エ. のべ3回以上(H28 2回) オ. 3講座(H28 2講座) (4) 学習習慣の定着 ア. 1～2年生：年2回実施(H28 2回) イ. サマーセミナー、ウィンターセミナー等の開催(H28 2回) ウ. 生徒向け学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答36%以上(H28年34%)。	(1) 1～2年の学力定着・学習習慣の定点観測としてスタディサポートを実施。分析会を通じ把握活用。 ア. スタディサポート1～2年：各2回実施済。(○) イ. 分析会2回実施済。(○) (2) 『ICT化』と『生徒の声が出る授業』を重点として取り組んだ。 ア. 新たにパッケージ研修Ⅱを実施した。(研究授業2回、職員研修3回)(○) イ. 学校教育自己診断『ICT機器が授業等で活用されている』の生徒全体での肯定的回答88%(◎)。ICT授業の公開回数16回(◎) ウ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答57%(◎) (3) 生徒の英検資格取得を支援するため、校内英検対策講習、英検一次試験の校内実施を充実させた。 ア. 1～3年生のべ350名が受験。(◎) イ. 英検一次合格者：2級受験者増により準2級一次合格は減準2級一次合格131名+準2級合格確実だったが2級に挑戦し不合格となった57名で計188名(30名増)、2級一次合格37名(12名増)。レベル的に達成。(◎) ウ. 2級保持者数：前年比7名増の34名。(△) エ. 英検校内実施のべ9回(3学年×3回)(◎) オ. 英検校内講習3講座を開講(○) (4) 学習記録カードをツールとして活用し、学習習慣向上に努め、スタディサポートで結果を把握。 ア. 1～2年：各2回実施済。(○) イ. 1年7/24～26サマーセミナー実施済(○) 2年12/25～26：ウィンターセミナー実施済(○) ウ. 学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答 前年比横ばいの34%(△)
3. 個性を輝かす生徒の育成	生徒の学校生活の充実と生活習慣の改善支援	(1) より風通しのよい職場の実現 ア. 職員研修の実施 イ. 経営会議の定期的開催 ウ. 分掌・学年会への管理職の出席 エ. ビジョン21の活動推進 オ. 校長メモの配布 (2) 生徒の生活習慣の改善 ア. 遅刻の改善 (3) 教育相談委員会を中心とした相談活動の充実と情報の共有化 ア. 教育相談室会議の定期開催 イ. 個別の支援計画、個別の指導計画の作成と活用	(1) 教員向け学校教育自己診断『分掌・学年の有機連携』の肯定的評価50%以上。(H28年度43%) ア. 2回以上(H28年1回) イ. 経営会議26回以上(H28 27回) ウ. 管理職出席26回(H28 31回) エ. ビジョン21による学校課題の解決推進2件(H28 2件) オ. 職員会議等での配布12回 (2) 生徒の生活習慣 ア. 遅刻5回以下率(前年以下) (3) 相談活動 ア. 教育相談室会議の開催12回以上(H28 28回) イ. 生徒向け学校教育自己診断『子どもの心身の相談』項目の肯定的評価66%以上。(H28年度59%)	(1) 職員研修の充実と管理職の学年会等への出席を継続 学校教育自己診断『分掌・学年の有機連携』への肯定的回答27%(△) ア. 4回実施：人権研修1回、授業研究3回(◎) イ. 経営会議を33回開催。(◎) ウ. 分掌・学年会への管理職出席37回(◎) エ. ビジョン21活動の成果2件(広報と研修)(○) ①中学生志望1月時点1.21倍 ②パッケージ研修実施 オ. 延べ15回配布済み(◎) (2) 生徒の生活習慣 ア. 前年比3%悪化し77%(△) (3) 教育相談委員会・保健部・学年連携のもとと生徒支援に努めている。 ア. 教育相談室会議24回開催済み。(◎) イ. 学校教育自己診断『子どもの心身の相談』への肯定的回答 大きく改善した。80%(◎)
4. 学校づくりに開かれた	中学生参加行事の充実とPTA・同窓会・後援会の皆様との連携推進の継続	(1) 中学生・保護者参加行事の充実 ア. 中学生・保護者・塾等関係者の来校者増 イ. オープンスクール・学校説明会・クラブフェスタ等の開催回数増 ウ. スポーツフェスタに加え文系クラブを含めたクラブフェスタの開催。 (2) 中学校・塾への効率的な訪問の実施 (3) 教養講座の定期開催	(1) 中学生参加行事 ア. オープンスクール等への年間参加者2,000名以上(H28 2,100名) イ. 7回(H28 7回) ウ. 1回(H28 1回) (2) 中学・塾訪問200回以上(H28年度281回) (3) 10講座以上の開講。	(1) 中学校招待ソフトテニス今宮杯を4年ぶりに実施した効果により、来校中学生・保護者大幅増。 ア. 来校者総数3,030名。(◎) イ. 9回実施。(◎) 7/29、12/25今宮ソフトテニス大会戒杯を実施。 ウ. 1回実施済。(○) (2) 201回訪問(○) (3) 16講座開講。(◎)